

地域包括支援センター名：海岸地区地域包括支援センターあい

資料4-2-②

1. 今年度の重点的な取組方針					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
1-1. 市の方針に即している	4	市の計画や実施方針に基づき委託事業として包括的支援事業や地域包括ケアシステムの構築、次世代への人材育成など市(基幹型包括等)と連携を図り、公正中立の視点を持ちチームで取り組んだ。	4	地域包括支援センター事業運営方針・実施方針等に基づき、事業を展開している。	
1-2. 長期的な視点を踏まえた上で今年度の取組を明確にしている	3	地域包括ケアの充実に向けた包括的な支援・サービス提供体制の構築を目指すため地域ケア会議を年2回行った。まちから協議会へ月1回参加し、今後の体制作りを促すための関係づくりを行った。	4	まちから協議会の地区編成変更の方針を受け、円滑に地域と連携できるよう調整していた。個別支援及び地域のネットワークに関する地域ケア会議を開催している。	
2. 組織の運営体制の具体的方針					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
2-1. 組織体制並びに管理責任者及びトレーナーの役割が明確である。	4	主に管理責任者が毎週法人の朝礼に出席し、定期的に施設間会議、医療連携会議等にも参加し法人と連携を図る体制がある。トレーナーは日常業務の把握・集計し法人本部へ毎月報告を行っている。	4	法人と連携を図る体制がある。主に、管理責任者は対外的な対応、管理者(トレーナー)は包括内を調整する等、役割分担を行い、スーパービジョンは随時行われている。	
2-2. 切れ目なく三職種を配置し、業務を継続する体制がある	3	三職種を配置するため法人人事へ相談できる体制があり、内部異動や一般公募にて切れ目なく人材を確保した。	4	退職者がいたが、切れ目なく人材を確保できている。また、利用者に影響が出ないように、引き継ぎ等に関して工夫されている。	
2-3. 適正な職員配置の方針があり、業務量に応じた人員数が確保されている。	4	いつでも相談できるよう事業所に待機者を置き、ケアプラン作成件数等の業務量に応じて職員を配置する体制があり、三職種の他介護支援専門員2名と事務員1名を配置している。	4	包括的支援事業や高齢者支援を円滑に実施するために、三職種に加え看護職1名を増員するなど、適正な人員配置に努めている。	
3. 職員間の連携に関する具体的方針					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
3-1. 支障なく業務を遂行するための職員間の連携体制がある。	4	朝礼やミーティングにて業務の報告をし記録に残すとともに経過記録を基に主担当不在でもケースに応じて迅速な対応ができる体制がある。不在時の伝達も記録に残し確認している。	4	業務情報を朝礼、ミーティング時に共有、記録することで主担当不在でも迅速な対応ができています。不在時の対応も記録に残しフィードバックするなど連携がとれている。	
3-2. 三職種の専門性を活かし、チームで事業を実施している	4	ケースごとに内容を共有・検討し(カンファレンス)、役割分担・同行訪問など判断し連携を図りチームケアを意識し事業に取り組んでいる。必要に応じて福祉相談室とも連携を図る。	4	朝礼等で事例に適した職種を検討し必要時同行訪問するなどチームケアをしている。福祉相談室とは役割分担を行い、介護保険関係の相談は主に包括が担っている。	
4. 公正・中立性確保のための具体的方針					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
4-1. 公正・中立性を確保するための根拠がある	4	事業所の紹介方法として利用者の意向にそった事業所を選定し2~3か所提示して選択してもらう。事業所の紹介選定理由を記録に残し、紹介先の集計を行う。	4	利用者から条件を聞き、2~3か所の事業所を紹介している。紹介事業所や選定理由を日報に記録し、一覧表を作成している。年間を通し委託率は適正に維持されている。	
4-2. 職員に対する意識啓発の機会を設けている	4	毎日の朝礼や月1回のミーティング等で職員の情報交換の場を持ち、受付ノート(台帳)の作成や届け出書類の管理により各自紹介先が確認できるように共有する。	4	月報として月に報告すると共に、包括内では、受付台帳を作成し、朝礼や月に1回の会議の席上で共有している。	
5. 緊急時対応の具体的方針(災害時含む)					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
5-1. 緊急時の体制が整備され、機能している	4	緊急時の連絡網を作成し全員に配布し周知している。夜間・休日は管理責任者・管理者が対応する体制があり法人へも提出し共有している。不審者からの脅迫電話がありナンバーディスプレイに変更し今後の対応に備え	4	緊急連絡網が整備されており、市が夜間に緊急連絡した際にも円滑に連絡が取れる等、連絡体制が有効に機能している。ナンバーディスプレイを導入している。	
5-2. 災害時の行動基準が明確である	4	消防計画をもとに役割分担をし防災訓練時に周知し、災害時安否確認フローチャート、災害時被害状況報告の手引きに基づき対応する体制がある。法人内の災害対策勉強会へ参加し、職員全員へ周知した。	4	包括内で防災訓練を行い、職員の行動と役割を確認している。災害時の持ち出し物品のリストを作成するなど持ち出しやすいように工夫されている。	
5-3. 防災・減災に向けて日常的に取組んでいる	4	消防計画をもとに年1回防災訓練を実施し、反省会を行い平常時でも各自笛とライトを持つこととし、備品についても確保できた。データのバックアップを毎日取り、緊急時の持ち出し品について共有できている。	4	火災を想定した包括内防災訓練を実施し、職員の動き等の確認を行った。また、法人や地域の防災訓練にも参加している。	
6. 個人情報保護に関する具体的方針					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
6-1. 個人情報の取り扱い方針が規定されている	4	個人情報保護方針に基づき、個人情報管理責任者を定め適切に管理する。就業規則にて個人情報の保護並びに機密保持の服務規律を規定している。	4	個人情報管理責任者を定め、個人情報保護規定等を作成している。パソコンは個人別にパスワードを持って管理している。	
6-2. 職員に対する意識啓発の機会を設けている	4	医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドラインの一部改正についてミーティング内で共有し、書面にて確認した。	4	厚労省のガイドラインに変更があった場合には抜粋し、確認している。12月の変更時には1月のミーティングで共有した。個人情報は施錠できるキャビネットに入っている。	
7. 苦情・要望に対する具体的方針					
評価基準	自己評価	自己評価の根拠	基幹型評価	評価するにあたって判断したことから	市評価
7-1. 苦情・要望の対応のための適切な体制が整備され、機能している	4	苦情解決の仕組みと役割の手順をマニュアル化し、苦情記録の作成、必要に応じた担当者の変更、市への報告を行っている。	4	苦情解決手順をマニュアル化している。苦情記録ファイルを作成し、必要に応じ、市への報告を行っている。苦情件数は3件あった。	
7-2. 苦情・要望の対応のための職員の対応力向上に向けた取り組みがある	4	苦情記録を基に担当者の意見も勘案し話し合いを行い再発防止に努めている。朝礼やミーティングにて職員全体で共有し統一した対応をしている。	4	苦情記録を基に全員で苦情内容を共有すると共に再発防止等の業務改善を検討するなど資質の向上に努めている。	
総合評価(平均点)	3.88		4		#DIV/0!

総合評価(自己) 今年度は緊急時の対応について見直し、防災訓練反省会をもとに備品をそろえ、新たに減災グッズを携帯できるよう日常的な取り組みを強化した。地域へ向けたアプローチとして、ちがさき体操・湘南くち体操の実施(年間延べ134名)や認知症サポーター養成講座の開催(年2回・31名参加)、地域のお祭りに参加し住民の健康相談ブースを設ける(30人受付)など引き続き健康維持・介護予防に努め、歌体操等地域の活動に参加、地域の交番と連携を取るなど地域のネットワークを活かし取り組んだ。来年度に向けて、まちから協議会へ月1回参加し、地域の方々へ事業所の役割や業務について周知でき、地域の課題に取り組むネットワークづくりができ、今後の地域ケア会議の参集について確保できた。

運営協議会の意見

総合評価(市)

運営状況レベルの内容	評価点
求められる評価基準を満たしており、具体的成果が見られる	4
求められる評価基準を満たしている	3
求められる評価基準を満たしていないが、取り組みは行っている	2
求められる評価基準を満たしておらず、取り組みも行っていない	1